武蔵野市の将来を考える市民会議（第4回）議事録

日時：平成 22 年９月 17 日（金）　午後７時～９時
場所：かたらいの道　市民スペース
次第
　１．開会
　２．議事
　（１）武蔵野市の将来像について
　　第三の視点　新たな都市像・都市文化を「創造する」
　３．その他
　（１）議事録確認
　（２）次回日程確認
　　日時：９月 28 日（火）午後７時～９時
　　場所：かたらいの道・市民スペース

＜配布資料＞
　次第
　資料１　委員からの意見について
＜参考資料＞
　参考資料１　武蔵野市行財政改革アクションプラン（平成 21～24 年度）
　参考資料２　武蔵野市の将来を考える市民会議　傍聴者アンケート　第３回　集計結果

1. 開会

○事務局（企画調整課長）　それではお待たせいたしました。定刻でございますので、武蔵野市の将来を考える市民会議第４回を開催させていただきたいと思います。

次第がお手元にあろうかと思いますが、本日は将来像についてということで、第３の視点についてご議論いただくということでございます。

その前に、配付資料としまして、参考資料１「武蔵野市行財政改革アクションプラン」をお持ちいたしました。これは前回の議論の中で進行管理と言いますか、目標を定めたものが一体どうなっているんだというお話がございまして、それに付随する資料としてお持ちしたものでございます。「第三次行財政改革を推進するための基本方針」にのっとりまして、その計画期間である平成21年から24年のアクションプランでございます。中をご覧になっていただきますと、個々の事業というよりも、いろいろな視点で行革をやっていくんだということが書かれてございます。これにつきましては、21年から24年の年次計画になってございまして、市のほうで21年度についてどういう進捗状況だったかということはまとめておりまして、それはホームページに掲載させていただいておりますが、このような形でまず行革の基本方針というものがございます。それによってこの具体的なアクションプランがあり、それを年次で進捗状況をまとめてご報告しているというところでございまして、こういう全体の流れの中で行革をし、また個別の事業については今日もやっておりましたが、市の決算委員会において、決算の中でご確認をいただき、それから私どもの事務事業評価に反映し、それがまた予算につながっているということで、これがぐるぐる回って、それぞれ計画と実態がどうなっているかというチェックをしているということでございます。これもご参照いただければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから、参考資料２ということでございますが、これは傍聴にいらしている方々からいただいたご意見でございますので、これもご参照いただければと思っております。

それから、机の上にこのグリーンの冊子、「クリーンセンターの今昔そして未来」という資料と、あと白いコピーが３部ほどあろうかと思いますが、これにつきましては、Ｂ委員から提供されました資料でございまして、先ほどＢ委員にはご確認をさせていただいたところなんですが、これは今日の議論の中でＢ委員のほうから若干ご説明があると聞いてございますので、よろしくお願いいたします。

資料につきましては以上でございます。

2. 議事

（1）武蔵野市の将来像について

第三の視点　新たな都市像・都市文化を「創造する」

それで、次第にのっとりまして、今日の議事の１でございますが、「武蔵野市の将来像」についてということでございます。改めてこの資料２というＡ３の縦長で、今までのフレームも含めてお示しさせていただいております。第２回、第３回と経て、今日は第４回でございまして、きっちりと各回でフレーム、それから要旨について分けているわけではございませんが、基本的には今日第４回、「第三の視点、新たな都市像、都市文化を『創造する』」という観点でご議論いただければというように思っております。

中身はいろいろと多岐にわたると思っておりますが、大まかなタイムスケジュールで考えますと、例えば新しい事業でありますとか、都市基盤、都市リニューアルについてを前半ご議論いただきます。後半は憧れとか、愛着ということでございますので、これは今までのフレームを通して、２、３、４回の議論の中で全体の中で、「愛着」だとか、「憧れ」というものについてご議論いただければと思ってお

ります。どうぞよろしくお願いいたします。
　それでは、第三の視点のご議論をと思っております。新しい事業とか、都市基盤というお話でございまして、特に都市基盤についてご提案がありました。A委員だったと思うんですが、いかがでございましょうか。口火を切っていただければと思うんですが、よろしくお願いいたします。

○A委員　都市基盤ですね。都市基盤というところの話になると思うんですけれども、基本的に３駅しかないというのもあったりするとは思っています。吉祥寺のところの駅の北口なんですけれども、大分きれいにはなっているんですけれども、タクシーに乗って初めて聞いたんですが、駅のロータリーに入れないという駅は中央線沿線で実は吉祥寺だけだったりすると。言われて初めて確かにそうだなと。吉祥寺は基本的にお寺が全部土地を押さえているので、きついというのはよくわかったりはするんですけれども、じゃ南口のほうだったらまだ何とかなるんじゃないかなという気もしていて、南口も大分治安はよくなったとは思うんですけれども、一昔前はとても怖くて、そんな歩けるところじゃなかったんですよ、駅の出た直後のところは。昔は薬を売っていたりもしていた人たちもいましたし。あそこの部分のところというのは、非常に何かごちゃごちゃしているというのもあって、あそこは整備したほうがいいんじゃないかなというのが１点、吉祥寺で、三鷹のほうは余りいじりようがない。武蔵境の駅のほうなんですけれども、あそこも大分きれいにはなったと思うんですけれども、基本的にまだ南口もイトーヨーカドーが２店建っていますけれども、南口のほうが恐らくイトーヨーカドー、片方20年以上たって、多分建てかえがそろそろ始まるのかなというのが時期的にあると思っています。その建てかえのときにまたごたごたしないように、武蔵境の駅の価値が上がるようにするというのはここ10年間の中で多分起こってくるはずなので、あと武蔵境の側のほうが、まだ武蔵野市の中においてもあいた土地が――あいた土地と言うとあれですけれども、人口増加が見込める土地が多いというのはこの前もおっしゃっていましたし、そういうのも含めると、武蔵境の駅の周辺というのはまだまだ、武蔵野市というところで考えたときには価値観を上げる要素というのがあるのかなと思っています。すいません、というぐらいしか今記憶がないです。
　以上です。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございました。
　いかがでしょうか。では、前回いらっしゃらなかったB委員、いかがでしょうか。

○B委員　３回目はちょっとたまたま本当に申しわけないんですが、来る予定だったんですが、どうしても来られなくて欠席になってしまったんですけれども、今回、都市基盤ということなんですけれども、よくハードとソフトはセットでというふうに言われているかと思いますけれども、幾らいろいろなものを形でつくっても中に魂を入れなければ何にもならないというような、そんな感じが日ごろからしております。
　本当は前回出す予定だったんですけれども、地図のついたＢメモという地域の施設と地域コミュニティというのがあるんですけれども、これはいわゆる武蔵野市の地域生活環境の中の地図からちょっと拡大……、真ん中がちょうど緑町で切れているんですよね、この地図。だから、つなぎ合わせたんでぐたぐたとなっている部分があるんですけれども、そこのところはちょっとご容赦いただいて、かなりうまくつなぎ合わせたつもりですが、ちょっとずれていますね。ここの中に、いわゆる都市基盤の最たるものと言われるクリーンセンターが17番にあるんですけれども、今、クリーンセンターの建てかえの問題

が出てきて、この緑町とそれから北町が一緒になってまちづくりをまたし始めたと。前回もそれはやったんですけれども、し始めて、いろいろな施設をここのところにずっと書き出してみると、結構いろいろな施設があって、たまたま武蔵野の中央地域の北側というのは官公庁が集まっていて、非常に住んでいる人にとっては便利ですねとよく言われるんですが、そのかわりに車だの、人だのがものすごく集まるところですね、そういう意味ではね。

その中で、せっかくある公共施設、その他もろもろの施設を上手に利用する。昭和46年にコミュニティ構想ができたときに、コミュニティセンターをつくって、それで終わりというのじゃなくて、中での活動、地域でのさまざまな問題について、いわゆるまちづくりという言い方をされていたと思うんですが、それの中心になる拠点としての役目みたいなのもあるんですよというようなことが書かれていたと思いますけれども、今、さらにいろいろな施設ができまして、私たち何回かパークタウンの自治会のことを話をさせていただいているんですが、パークタウンの自治会というのは、閉鎖された集団というか、団体ではなくて、そこに矢印がいっぱいついているんですけれども、いろいろなところに出かけていって、口出しをしているというか何と言うか、参加をして、情報を集めて居住者に返し、また居住者から聞いていろいろなところにまた要望を言っていったりとか、そういう繰り返しをして、いわゆる地域のコミュニティをつくっているというような感じのところではなかろうかなというふうに思います。だから、まだ全部の施設を使い切っていないのですが、利活用を今後も、コミュニティセンターはもちろんなんですけれども、きっかけづくりをつくってくれたというコミセンのことについてはもちろんなんですけれども、そのほかにいろいろな形で私たち住んでいる者がうまく活用していくということですね。都市基盤と言われる建物とか、そういうものを含めてなんですけれども、それはこれからの武蔵野にとってやっぱり一つの目的だけで使うんじゃなくて、一つの建物を多目的に活用するというような、そういう考え方が必要ではなかろうかなというふうに思っています。

あわせて引用資料として、新クリーンセンターのたまたまこれは前回会議の……、新クリーンセンター施設周辺整備協議会の席上に出た、マス目になって、表になっているんですが、これを見ていただきますと、これは集会施設だけでずらっと書いてあるんですけれども、私たちの周りにこんなにたくさん集会ができるところがあるというのは初めて知ったという。ただ、使い勝手についてはまたいろいろなんですけれども、ともかくありますよというので、使い切れていないというか、活用し切れていない部分というのが、知らないというのもありますからね、いっぱいあるんだなというのを改めて気がつきました。この利活用をうまく機能的に相互に、まだ縛りがあって、総合体育館なんかはスポーツ団体に所属していないと使えませんとか、そういうのがあるんですが、そういう狭いことを言っていないで、今後はね、活用をするべきじゃないか、あいているところはすごく多いですからね――活用するべきじゃないかなというふうに改めて感じました。もう武蔵野は土地がないから新しい施設をつくるというのはかなり無理ですよね。だから、あるものを有効に使うという知恵も私たちは働かせないといけないなというふうに私は特に思いました。

ついでに、もう１枚の縦型の京都府の例というのを、これも一緒に言ってしまいますけれども、これは実はそこに書いてありますように、WHOの政府コミュニティ協働センターによって推進されているいろいろな政府コミュニティの組織についてということで、これも結局今ある既存の団体組織を上手に利活用して、地域の安心安全だとか、子供の安全、高齢者の安全も含めまして、あるいはさまざまな課題、これはまちづくりについてのさまざまな課題というのも含めて、こういう既存の団体、それから施設その他を利活用して、私たちの地域を安全で、安心できるような地域に進めていくというのも、今後の武蔵野市の将来の未来像というか、そういう考え方の一つではなかろうかなというふうに私は感じま

す。
　ついでにちょっとしゃべっちゃうんですが、すいません、前回来なかったものですからたまっちゃったんですけれども。緑色の「クリーンセンターの今昔、そして未来」というのは、これは20周年の記念誌なんですが、もう26年目に突入しました、あそこが建設されてから。このクリーンセンターの運営や稼働、まちづくりについては、行政と私たち周辺住民でクリーンセンター運営協議会という形で組織されていますが、そこの中で本当にけんかもしたし、それからお互いに歩み寄りましょうとか、一緒にやりましょうというので育んできたのがパートナーシップだったんです。これがなくてはできないというのが改めてわかりましたので、あとでお時間があるときにゆっくりご覧になっていただくと、汗と涙の結晶がここに詰まっております。
　もう１つ間に挟んであったのは、これは私たちのパークタウンのまちづくり、緑町団地から緑町パークタウンに建てかえをするときにいろいろとアドバイスをしてくださった延藤安弘さんという、当時千葉大学の教授だったのですが、この先生がまちの縁側、地域の縁側とは、要するに接点ですよね、自分たちといろいろな地域の接点であるという、その辺の縁側があることによって、いろいろなことで物事が絆という形で住みやすいところにもなるし、住みにくいところにもなるんだよと、ただそれは自分たちでつくらないとだめですよというようなお話がここに書かれていますので、これも一緒にご覧になってください。
　以上、すいません、資料の説明と両方あわせてやってしまいました。以上です。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございます。
　すいません、私は冒頭に都市基盤という固い言い方をしてしまったのですが、今、Ｂ委員からもお話がありましたように、住まい方だとか、あと施設ですとか、あとは交通の問題だとか、都市基盤というのはいろいろな言い方ができると思いますので、余り固くとらえないほうがいいのかなという気がいたします。よろしくお願いいたします。
　いかがでしょうか、どなたか。

○Ｃ委員　固いほうの都市基盤でもうちょっと続けさせていただきますと、Ｂさんのくださった資料のなかにも、保健センターのちょっと北側に元図書館の跡地がありますね。それからここのすぐそばに三鷹の広い駐輪場がありますね。吉祥寺でいうと公会堂があります。そういったふうに、これから何年かのうちに何か公共施設が建設される可能性があるものが、しかも大型でね――が幾つかまだ残っています。それができるかできないかというようなことは、今後の後期の長計の中でどういうふうに皆様が判断されるかということにもかかわってくるんですけれども、私が言いたいのは、そういったときに公共の施設、Ｂさんがおっしゃったように、多分今後は複合的な公共の施設が多くなると思うんですけれども、あるいは民間と複合ということも含めてね。その場合に、やっぱり企画の段階から市民参画するということを原則的に保証してほしいという。この間もさまざまな教訓で、そうしたほうが物事はかえって時間的にも早く、しかもいい結果が出るといったふうに私なんかは見ております。その辺は市役所の方がどうご判断されているのかわからないんですけれども、特に大型のそういった公共施設、あるいは複合公共施設については市民参画を原則としてやってほしいという、とりあえずハード面ではこれです。

○事務局（企画調整課長）　いかがでしょうか。

○D委員　今、ＢさんやＣさんからのお話で、やっぱり施設を有効に活用するためには、情報提供とかもやっぱり大事だということを感じまして、今、Ｃさんがおっしゃったように市民参加も大事だと思います。特に私が都市基盤で市民参加が遅れているなと思うところが私にとっては水道事業であります。それについて、私は大学院の修士論文で今水道事業についていろいろ研究しておりまして、特にどうしてもこの場で言う意義があるなと思ったので、水道事業について少し述べさせていただきます。

水道事業について、武蔵野市の市政と方針及び基本的施策で、武蔵野市長は水道事業の都営一元化を視野に入れて水道事業を見定める必要があるということを述べております。現在、第４期の長期計画、調整計画においては、上水道の施設というものが老朽化を迎えて、50年とか、そういった中で更新について今後検討していく必要があるという、こういった現状があります。そういったライフラインである上水道について、今、みんなで考えていかないといけないことであるにもかかわらず、武蔵野市の施策、計画という段で、いろいろ都市整備部とか、下水道課とか、いろいろな部によって委員会で話し合われた報告書があるんですけれども、そこの段で、水道部だけ全く報告書にアクセスできるものはないんですね。それについて、私はこのままで果たしていいのかという問題提起があります。

私はやはりそういったライフラインである水道事業を今後どうしていくか、水道の問題はやっぱり50年、100年とかというスパンで考えていかないといけないと私は考えていまして、その上で、じゃ市民参加というものを私は促していくべきだと考えております。その理由としては大きく２点ありまして、まず１点目が、市の中で、武蔵野市は市民協働ということを重視しております。例えば同じ水との関わりである下水道分野についても、昨年、下水道総合計画という100ページ以上にも及ぶ報告書が出されていて、その４つの基本方針の中の１つとして、市民とのパートナーシップとか強く強調されているんですね。下水道を支えるためには事業者、市の職員、そして市民もかかわっていかないといけない。それだけ個別の分野においても市民参加というものが重視されていて、じゃ水道事業において、このままこういった会議の場で余り論点とならなくていいのかという問題意識があります。

２点目は、市を越えた比較なんですけれども、例えば都営一元化をして、市町村というのは東京都の中で３つあるんですけれども、その中の１つとして、例えば昭島市は自分たちの水道事業を都に完全に任せ切れない、自分たちで今維持している。だから水道の事業基本計画というのをそういった10年スパンで、市民のアンケート調査とか、そういったことを着実にやりながら、自分たちの水道はどう打ち出すかということをちゃんとしっかりビジョンを持っているんですね。そういった他市との比較においても、やはり武蔵野市がこのまま水道事業計画において何かしらビジョンを持たなくていいのかという問題意識があります。こういった市の各分野との比較、そして市を越えた比較、こうした２つの理由から、私はもっと市民参加、これについてもっと水道事業で本格的に考えていくべきじゃないかと思います。それがＣさんの市民参加とか、そういった情報提供を考えるに当たっての各論の一つだと思います。

以上です。

○事務局（企画政策室長）　上下水道がやっぱり見えないですよね。あるのが当然だというような形で、下水道が100％になった段階から議論が止まっていたという事実があるんですね。ですから、水道もいろいろ難しい話はあるんです。都の水道の供給がちゃんとつながっていない状況で、災害があったときに、じゃ果たして水が流れるのかどうかという緊急対応としての水道が万全ではないという実態があります。そういう情報提供がおろそかであったということで、今、市役所の中でも反省しているところなんですね。それと同じように、先ほどＢさんがおっしゃったように、ごみの処理も一時、谷戸沢の問題

だとか、二ツ塚の最終処分場の問題で大騒ぎしたり、その前はクリーンセンターを建てるときに大騒ぎするんですけれども、まさしく、市役所もそうなんですけれども、のど元過ぎればその存在そのものを意識しなくなってしまうと。ですから、ぜひ今おっしゃったように、上下水道の問題も、ごみの最終処分の問題も、ぜひ表に出していただきたいという意見は我々本当に痛切に感じていますので、よくわかります。どうしても潜っちゃうんですよね、安心すると。

○B委員　そうですよね、わからないんですよね。日常生活に必要だけれども、実際にどうなっているか、地面の下でしょう。見えませんよね。だから、ごみだって、ごみに出したらその後知らない人はいっぱいいますよね。それと一緒。

○事務局（企画調整課長）　きっと都市基盤の問題というのは、さっきA委員が口火を切ってくださった駅前の問題もやっぱりすごくありますし、交通の問題もありますけれども、本当に地面の下の見えない施設もやっぱり都市生活をする上で最低限のインフラなんですけれども、やはりそこには今いろいろ出た問題はあるんだろうなという意識は持っております。続いていかがでしょうか。

○E委員　都市基盤ということで４つぐらいちょっと思うところがあるんですけれども、１つは前の前の長期計画ですかね、緑の回廊みたいなビジョンがあったかと思うんですけれども、それで非常に武蔵野市、一定のビジョンの成果というのがあったと思うんですけれども、今現在、ふと見てみると、特に私が通勤で使うせいもあるんですけれども、三鷹駅の北口というのが非常に緑が少ない状態になっていて、ほかの武蔵野市の地域に行くとそれなりに緑があるんですけれども、やはり駅の周りで緑が少ないというのは非常に精神的にもちょっと殺伐としてしまう部分があって、そういうここでは自然の回復というようなことがちょっとキーワードで出ていますけれども、そういう自然の回復のビジョンみたいなものは、ここで再度もう一回考え直してもいいタイミングなのかなというのが一つ思っているところです。

それから２つ目としまして、自転車の問題なんですけれども、もちろん放置自転車の問題、それから自転車のマナーの問題、これは言わずもがなで、言わなくても多分皆さん念頭に置かれている部分だと思うんですが、やはり自転車道みたいな部分で、せっかく土地が平らで密集している中で、低コストで環境に優しい移動手段として、しかも最近浄水場のところから調布インターにかけて非常に立派な道ができて、この前あれで調布まで自転車で行ってみたんですけれども、やはり非常に気持ちがいいんですよね。そういう目で見てみると、例えば、三鷹駅から吉祥寺、あるいは武蔵境のほうの道というのは、道幅も片側１車線両側２車線で、幅も広い中で、工夫次第でもうちょっと自転車が通りやすい道というのは幾らでもできるのかなと。あるいはせっかく中央線が高架になって、そこの有効活用みたいなことも考え得るのかなというのは一つ考えてもいいんじゃないかなと。

あと、やはり武蔵野市の市役所近辺、こういう行政機関がそろっているところに自転車でもってアクセスしやすい、安全にアクセスできるような道筋というのが一つは必要なのかなというふうには思いました。それが２つ目。

それから３つ目は、土地の有効活用ということなんですけれども、１回目のときにもちょっと申し上げましたけれども、かなり遊休地があると。土地の有効活用に関する基本方針みたいな立派な方針も既にあるんですけれども、なかなかそれに書いているとおりに進んでいない部分もあるし、単純に遊び場として開放するのであれば、もっと早くできるよなというものがなかなか進まないみたいなところとか、

あとさっきちょっと出ていましたけれども、三鷹駅の北口の駐輪場も、余りに土地の価値に対して利用方法として、ちょっと価値が幾らなんでも低過ぎるのがずっと放置されているとかという部分も、何らかの手だてというか、本腰を入れてアクションを起こす必要があるのかなというふうに思っています。

それから、４つ目は、先ほどもちょっと出ましたけれども、水を含む災害対策なんですけれども、いろいろなニーズ関係の調査でもやはり災害対策というのは非常に大きいウエートを占めていて、実際に火事さえ起きなければ今の備蓄で足りるんだと思うんですけれども、火事が起きて、ある程度焼け出された人が出たときにどう対応するのか。それから特に飲み水の確保という点については、例えば隣の練馬区などでは、緊急用の井戸みたいなものがいっぱいありますし、あそこではコミュニティで水道事業をやっているところも幾つか地下水なんかではあって、500人ぐらいで１つの水道事業をやっていて、都の水道を接続するのか、そこに引っ越してきた人がそのコミュニティの水道を接続するのかというのを選べるようなところもあったりするような状況の中で、ちょっとオープンな議論でいいんだと思うんですけれども、災害対策も含めて武蔵野市の上下水道をどうしていくのか。特に技術的な分野なので、どうしても技術屋さんの情報に左右されてしまうというか、我々市民もぱっと言われても全然わからないんですけれども、やっぱりそこはオープンな議論がある程度あったほうがいいんじゃないかなというふうには思います。

とりあえずちょっと駆け足ですけれども、以上です。

○事務局（企画調整課長）　いかがでしょうか。

○Ｆ委員　都市基盤ということで、今いろいろ４点、Ｅさんがお挙げになったんですけれども、私もちょっといろいろ考えてきて、やっぱりまちづくりということで、人に優しいまちづくりにしていっていただきたいなというのはすごく思います。高齢者や子供、それから小さい子供を抱えているお母さんが暮らしやすい、そういう方たちにとって優しい道づくりであって、まちづくりであってほしいなと思います。例えば商店街の店舗のところとそれから歩道がバリアフリーになっているとか、それから車いすとか、ベビーカーを押して歩きやすいように放置自転車がない、それから突き出した看板がない、それからおむつ換えができるような、またオストメイトなんかも使用できるような多機能のトイレがまちの中に随所にあって、そういうところがどこにあるかというようなことがすぐわかるような看板が立っている、そういうふうにやっぱり人に優しいまちづくりをポリシーとしてもっともっと進めていただきたいなと思います。

やっぱり高齢者に優しいまちとか、それから女性とか、子供に優しいまちというのは、男性にとってもきっと暮らしやすいところになるんじゃないかなと思うので、性別や年齢に関わりなく、みんなが暮らしやすいまちに、そういう視点をやっぱりまちづくりに入れていただきたいなと思います。そういうところで男女共同参画の視点をぜひまちづくりにも生かしてほしいなと思うのが１点。

それと、先ほどの自転車の問題もあるんですけれども、放置自転車とか、そういう自転車レーンのもぜひやっていただきたいんですけれども、暴走自転車というんですか、特に吉祥寺なんかの五日市街道ですとか、歩道がそんなに広くないのに、すごくとばしている自転車が多くて、とても怖い。本当にひやっとするようなこともしょっちゅうありますし、何か武蔵野市はとても自転車による交通事故が多いというようなことも読んだ記憶がありますので、ちょっとそれについての対策を、どういうふうにしたらいいかというアイデアは私にはないんですけれども、地道に講習会をするとか、何かそういうことでしか対応できないのかもしれないんですけれども、あるいはもうちょっと、例えば、思いつきで言って

いるんですけれども、街中、駅の前でたばこを吸えないスペースがあるように、自転車が入れないようなゾーンをつくってしまうとか、この道はもう自転車は乗ってはいけませんよというふうなことをもう強力に打ち出すとか、そういうふうなことがあってもいいのかなというふうな思いがあります。やっぱり小さい子供なんかを連れているとき、本当にふらふらするので、後ろからさっと来られるととても怖いですし、自転車の事故なんかで補償がなかったりとか、いろいろ保険とかも入っていないことで、例えば、ちょっと知り合いの方が中道通りで自転車同士でぶつかられたんですけれども、本当に二、三カ月入院されたんですけれども、どちらも本当に大変だったという感じで、どちらもとばしていたみたいなんですけれども、危ないので、ちょっとそういうことは市としても対策を考えていただきたいなと思います。

以上です。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○G委員　自転車に関してちょっと、私も日常的にかなり頻繁に自転車を利用しているし、特に武蔵野市で、ほかの都市と比較しているわけじゃないけれども、かなり多くの方が現実には使っていると。ただ、同時に今おっしゃったような危険な側面もあるわけで、これをどっちの方向へ解決したらいいかと考えたら、やはり自転車をもっと使いやすくする、安全に使えるような、例えば道を整備するとか、駐輪場をもっと設けるとか、要するに積極的に利用しやすい、例えばヨーロッパ、オランダだとか、あちらのほうには自転車専用道も随分整備されているように聞きます。ただ、武蔵野市でそれを整備しようとしても、道も狭いし、難しいんですが、何か工夫をして、積極的に自転車を利用できる方向へ持っていくと。車を減らしても、自転車が利用しやすくなる方向にいろいろと計画、知恵をひねったらいいんじゃないかなというふうに思います。

とりあえず自転車に関してはそういうことですが、あと都市基盤ということで、いろいろな局面から、特に駅の周辺等々のお話がありましたけれども、私は前に、前回、前々回にも少しお話ししたんですが、究極、武蔵野市の将来、いい市になるためにどういうことを考えたらいいかというと、やはり市民が安心・安全に暮らせる市であってほしいわけですが、その具体的な姿としては、やはり人々がもっと交流、盛んに市の中で市民が積極的に楽しく交流できる市であってほしいというふうに考えているわけなんですけれども、そういう意味からいって、人々がもっと交流できる場所をもっと整備し、提供するということ、それとただ場所をつくればいいということではなくて、交流できる仕組みというのでしょうか、積極的につくらないと、コミセンがあっても、なかなかそこは利用しにくいという現実があるかもしれない。そういう意味では、積極的に利用できる仕組みも整備することも含めて、人々が積極的に交流できる仕組みを考えていっていただきたいなというふうに考えています。

○H委員　今、都市基盤の件について、ハードの面についてお話がありまして、そのとおりだと思いますけれども、ハードについての問題点は私自身は余り問題点はないと思っているんです。鈍いかもしれませんけれども。それよりももっとソフトの面ですね。つい先日、武蔵境が活性化するためにとうがらしをやりましたね。あれはもう完全な都市づくりですよ、一つの。もう一つは北海道の例の小樽の水ですね、温泉から都市づくりをしようと。それから、木曽の木曽牛を使ったコロッケを一つのブランドにしようと。それから、この前も言ったと思いますけれども、例の石川県の神子原地区の神子原米、ロー

マ法王にそのお米を送って、ブランド米にしちゃって、これは全く数千人の村を数万人の町にしそうだという。これもずっとそれを見ますと、こういうことなんですね。一人のばかが行政を、まちを変えると。これは話は飛びますけれども、石原知事もそうですよね。東京マラソンのときにみんな反対したんですよ。銀座とか、浅草で、こんなもの、マラソンなんかやっていて、そんなものどうだということで、大反対があったんだけれども、あれはばかの一言でやっちゃったんだ。今、それでものすごい経済効果が、いや、これは私が言うんじゃなくて、昔から言われているんです。行政を変える常道はばかがいなきゃだめなんですよ、みんな反対しますから。

だから、これもある逸話に載っておりましたけれども、もう論議するのもいいですけれどもね、一つの例で言うと、私ももう何回もプロジェクトをつくってやりましたけれども、10人ぐらいの皆さんに昼飯を何にするかということで、１分ぐらい話せばそれで決まっちゃうんですけれども、10分話しているとカレーライスにしようと決まっちゃうんですよ、カレーライスにしようと。要するに人の意見を聞いて、自分の意見を抑えて、まあまあということでカレーライスになっちゃうんですよね。

だから、私が言いたいのは、行政の中でも一人ばかをつくって、もうずっと突っ走らないと、私は何年後には結局建物ばかりつくったってしようがないと思うんですよ。私はやっぱり具体的に言えば、障害者以外は働けというのは、働けと言っているのではなくて、暇をつくらないでくれと。それをもっと具体的に言うと、障害者も老人も、先ほど言われましたように、孤立させちゃいけないんですよ。要するに自立させるんですよ。働くということだとコミュニティはできますので。コミュニティセンターも必要ないですよ、働けば。だから、結局まちをつくるには、何回も言うようですけれども、いかにどこから税金を取れて、いかにその税金をどこに分配するかということがまちの仕事ですからね、市の仕事ですから。私は働くということは孤立を避けることですから、大変いい市の掘り起こしになると思うんですよ。

だから、具体的に言えば、何度も言うようですけれども、もう既に学生と老人を働かせた防犯グループがもう都内でやっていますよね、新聞に載っていましたよ。もう既に活動しているんです、現実的に。こんな議論をしているよりも、すべてプラン・ドゥー・チェックですけれども、もうプランなんかは要らないと思ったんですよ。もうドゥーですよ。ドゥーしないと、全部ほかのところに取られちゃいますよ。だから、こうしたらいい、こうしたらいいということよりも、私は先ほどのカレーライスじゃないけれども、論議すればするほど墓穴を掘ると私はそう思っております。

だから、公募をして、50歳ぐらいでも、ものすごく才能のある人を選んで、この分野でおまえやれというような行き方をしたほうが効率がいいと私は思っているんです。だから、具体的には何をするかというと、やっぱり老人を働かせるには、老人と学生を防衛団とか、消防団に育成して、とにかく孤立を避けさせる。老人と学生と一緒に住まわせて、学生は家賃を無料にし、老人は安全を保障する。それから老人は子供さん、育児の問題が今大変な問題ですから、幼稚園を、個人的に自分のお宅に小さい子供を呼んで、育児場所をつくる。これで労働需要が喚起されますよね。

それからもう１つは、やっぱり武蔵野市は吉祥寺ですよ。吉祥寺が一番ですから、私はちょうど10年ぐらい前に武蔵野マラソンというのを３キロぐらいやっていましたよね。私は二度ぐらい出まして、そのときにこれは将来は絶対吉祥寺と井の頭を結んで、井の頭吉祥寺マラソンをつくるべきだと。東京マラソンの前に僕は提案したことがあるんです。そうしたらだれも聞いてくれないし、だから、もう論議して、アイデアがいっぱいあって、10人いたら10人分のアイデアがありますので、やっぱりドゥーして、失敗したらまたやり直せばいいわけですから、というやり方を私はすべきだと思います。

特に老人は、私は持っていませんけれども、財産が3,000万から5,000万ぐらいは持っているそうです

よ。だから死ぬ前に使えと。競争させるんですよ、吉祥寺と三鷹とそれから武蔵境と。そしたら使いますよ。使った方は、何千万か使った人はもう相続税は半分にするとか、例えばの話ですよ。そういう具体的な例を言えば、みんな死んだら全部子供に取られちゃうから、つまらないからということで使いますよ。だから、ただ使わないのは明日に対しての不安があるから使わないだけであって、それをもうそろそろ、国ができないにしても、市、私は多分名古屋あたりはやりますよ、河村さんは、本当に。だから、昔、歴史を見ますと、高杉晋作だって、西郷隆盛だって、坂本龍馬だって全部一人ですよ。だれにも相談していない、一人でばしっとやっていますよ。だから、橋下知事もそうだし、河村さんもそうだし、ぜひ市長にそう言ってくださいよ。何か一つぐらい、こんな議論、議論、議論なんてしていないで、何かやってみる。それでないと、私はもう68歳ですから、時間がありませんので、50歳ぐらいの若い人、やる気のある人を公募で選んでやらせるんです。そうしたほうが私は武蔵野市の活性に結びつくと思うんです。

以上です。長くなりましたけれども。

○事務局（企画調整課長）　いかがでしょうか。

○Ｉ委員　今日の話題では、駅の周辺の問題がございますね。ただ、今３カ所とも、三鷹はちょっとあれですけれども、前の計画が進行中ですね。本当はどういうふうに仕上がるのか、実は私はよく知らないんですよ。だから、やっぱりその途中で余りものを言い過ぎてもしようがないんじゃないかという気がしますね。だから、南側をどうするのか、それから南北をつなぐ通路はどこにどうつくるのかも実は知らない。だから、そういう状態でいっても、重複することが多分いっぱいあると思うので、これはもうちょっと今は言えないなという感じですね。

個々の問題としては、例えば吉祥寺のまちで、人がまちの中で待ち合わせようとするときに、何か広場になるプラザみたいなのを、そういうエリアが、例えばＦＦの前の道路あたりをもうちょっと工夫して、いすでも置いて、待ち合わせやいろいろなイベントが行えるようなプラザみたいなのがあるといいのかなと思う。

それから、吉祥寺はこういうところでありながら、駅の周りにけやきが生えていないですね。だから、電車から見て、緑のたくさん見えるまちとそうでないまちというのは、これは外部の人が武蔵野はいいなと思うかどうかの一つの指標だと思うんですね。ですから、この近所では阿佐ヶ谷の駅、あのあたりはいいですね。ですから、そのぐらいの覚悟で、駅前にああいう中途半端なポットに変な木を植えるんじゃなくて、阿佐ヶ谷に負けないぐらい、どんどんけやきを植えて、ビルの上から緑が見えるぐらいにしないとですね。だから、私は電車に乗っていて、東京女子大を見るとか、ああいうのを見ていると、ああ、吉祥寺もいいところはあるなと思いますけれども、不幸にして大きな公園が全部低いんですね。ですから、井の頭公園も、善福寺も電車からは全然見えないですね。だから、まち全体をなるべく大きな木で、電車から緑が見えるようにしてほしいなというのが一つの希望ですね。

それから、まちの中の話なんですが、今申し上げたように、伊勢丹の跡もいろいろ様子を見極めないと何とも言えませんので。一つ言えるのはハモニカ横丁ですね。ハモニカ横丁はそれなりに今ぼつぼつ周りを整備しておられますけれども、あの中を見ると、私らも時々利用して様子を見ようなんて思っているんですけれども、今シャッターの降りている店が大部分になっちゃいましたね。ほとんど店がいなくなっちゃった。ですから、これは前の方々がほとんど年をとられてもう引退されちゃったのか、それとも私の実は共通して心配しているのは、あの吉祥寺駅周辺というのは土地代とか、借地代とか、そう

いうのは高いんじゃないんですかと。それで、立川なんかにとられるのは、実は借料が高かったから逃げていっちゃったとか、そういうことはないんですか。宅地は高いですね。ですから、そういうものをどうするのか。だから業者を稼がして、それから税金を取ってというだけじゃなくて、彼らがやりやすいようにどうサポートしてやるかというのもやっぱり一つは要るんじゃないかと思いますね。

ハモニカ横丁なんかはどういうふうにまとまるのかというのも楽しみなんですけれども、やはり相当工夫しないと。まだ中を歩いても足元は悪いですよね。あのままでいくのか。だからハモニカ横丁は薄汚いのが特徴であるとは言いながら、やっぱり小さいけれども小ぎれいにしていくのか、そういう形をやっぱり見せないと。

それから、今度は自治、コミュニティの問題に戻ると、コミュニティの構想を拝見していると約40年前に出ているんですね。それであのときに中心の建物をつくるとか言って、これはコミュニティセンターだと思うんですが、この区域を約１万人単位で切っていますね。それを自治で１万人単位でばらばらにやってできるとは思わないですね。だから、やっぱり自治組織はできなきゃいけませんし、自治組織は市とつながらないといけない。自治組織で何か具体的にやろうとしたら、やっぱりルールと金がないと動かないですよ。それは全部自前のポケットでやれと言っても、それはやる人がいないですね。それで、このまちは出入りが激しいですね。出入りが激しいですから、自治体の中核になるグループというのがどうやって育つんだと。放っておいたら育たないですね。だから、中核になる人をつくるルールとか、そういうものができないと、これは放っておいたら育たないですよ。もう40年育たなかったんですよ。だから、今コミュニティ問題を議論しておられるのは、一体40年のコミュニティづくりの成果は何だったんですか。どういうふうにでき上がってきて、それをどう修正するということで見ておられるのか。でも、それはまるっきりないですよ。だから、これはあと何年たっても同じじゃないかと。だから、これはやっぱり私は自治会というものを組織立てる努力をして、それと人はどういうふうにしっかり関わり合っていくかという、これをやらなかったら何年たってもできないですよというのが私の意見ですね。これは人が変わり、それから１万人が勝手なことを言うんですからね。まとまるわけがないですね。むしろやっぱりそういうのを今の状態だったら、市が一番まとめやすいんですよ。いろいろな団体を全部見ているでしょう。スポーツ団体でも何でも。おたくに申請書を出さないと成り立たないですけれどもね。だから、そういうのの対応はみんなやっておられるはずですね。だから、それをどうコミュニティに分散できるか。それは市のほうでももうちょっと考えを出さないと、自由にわいわい言わせたら、今の日本の政治と同じになっちゃいますからね。国としての形態があやしくなっていますよね。これは自由、自由と言うのの限界だと思いますね。

それから、環境緑化ですか、緑化ではさっきも申し上げましたように、電車から見ても緑があちこちに見えるようにしてくださいと。今は意外と見えないですよ。やっぱり杉並のほうが木の保存なんかはいいみたいですね。だから、電車から見ても杉並のほうがビルの横に木がたくさん見えますよ。だから、そういう努力はある特定のところでやっているかもしれませんけれども、やっぱり僕は武蔵野市はけやきの木を大事にして、にょきにょき生やしてもらうと。多少葉っぱが、落ち葉がうるさくても、それはもう市民で一生懸命掃いて、それから肥料をつくって、これは木を生やすというよりしようがないですね。私の住宅地周辺でもけやきのいっぱいあったのが、住宅がどんどん細分化して消えていっていますから。このまちを愛して、まず第一は、私は武蔵野市という、「武蔵野」という字が大好きなんですよ。だから、手紙を書くのも「武蔵野市」と、自分が書くのは誇りを持って書くんですね。だから、外部の人も武蔵野市っていい名前だなと思っている人もかなりいるんじゃないかと思うんですね。だから、この名前を大事にして、武蔵野市の名前にふさわしいように、けやきをばんばん増やしてくださいと、そ

れは私の一つの気持ちです。

　それから、緑の地図でいくと、公園をかなり増やしていただいていますね。これは随分努力しておられるなと、ありがたいなと思います。そこへまたけやきが出るんですけれども、それはそれとして置いておいて、公園を担当されているところは、縦割りになっているんじゃないですかと。それで公園の企画を、公園の予算を見ていると、年度末に使っていますね。例えば、遊具、遊び道具が変わったりなんかするのは年度末ですよ。だから、そういうのが縦割りになっていて、あと考え方が本当に市全体の環境緑化の考え方ときれいに融和しているんですかという質問。それで、地面が全部砂が多いでしょう、砂地になっている。僕はもっと、芝生でなくても、雑草でも生えているほうがいいんじゃないかと思いますけれども。子供が何かやろうと思っても、バッタをとろうと思ってもバッタがいないですよね。それからトンボもいないですよね。こんな武蔵野のようなまちで、ああいう公園がたくさんあって、緑がいっぱいあって、それでトンボもバッタもいないというのは、これは何かがおかしい。砂をまき過ぎているのでだめなんじゃないかと思う。要するに、生物は末端の細菌から、ダニから、それから昆虫からとサイクルがあるでしょう。それを砂をまいたらもうバイ菌と昆虫がダメになってしまう。そうしたら上がないですよね。

　それから、トンボ池ってあるでしょう。あれを年に１回かい掘りするんですね。あれはなぜですかと。あれは池の底に沼みたいに泥の層があるからそこに小さな虫が育ち、そこにヤゴが集まってえさを食べる。そういうので安定するわけですよ。毎年洗っちゃったら、なくなっちゃって、姿はいいかもしれないけれども、本当にトンボを増やすための思想があるんですかと。それで、だから何か公園とか、何かを扱う方は、緑が大事だと言いながら、本当は生態系を理解していない心配はありますねと。それは大事ですよ。そういう点は気になっています、緑に関してはね。

　余りしゃべり過ぎるといけませんね、じゃこの辺で一息つきましょう。

○事務局（企画調整課長）　Ｊ委員、いかがでしょうか。

○Ｊ委員　もちろん今、緑が多い、駅に緑があるということはすごく大切なことだと思います。ちょっとまた自転車のお話に戻ってしまうんですけれども、今いろいろ地球環境のこととかで、エコカーもありますように、車を使うより自転車のほうが環境にいいのはもちろんのことだと思うのですが、私がこちらに引っ越してきてまず感じたのは、もう自転車の多さにびっくりしたこと。ここまで自転車に乗らなきゃいけないのかと思うぐらいに、危なくて、駅前でもどこでも、あと整備はされていると言っても、自転車のマナーが非常に悪い。ということと同時に、マナーの悪い方がいらっしゃるということは、下を見るとまちも汚いなという印象が第一印象だったんですね。

　今、例えば駅の周辺で入れないところをつくる、それと同時に例えば緑を植えると、少しでもそこからは歩こうか、少しでも、私は自身は余り自転車に乗らないというふうに決めていまして、なるべく歩くようにする。それは年齢的なこともございますから、一概には言えないのですが、少しでも歩く、10分や15分、20分程度のところならなるべく歩くようにするという意識を持てば、例えばまちが緑できれいであれば、朝、季節がよくなれば、別に自転車を使わなくても、ちょっと早目に起きて歩くという習慣にする。そのようなことにすれば環境にもいいんじゃないかなとふと思ったのですが、これはあくまで理想なので、別に押しつけとか、そういうことではないので、そういうふうな考えを持つ市民もいるということをちょっと心にとめておいていただければいいなと思いました。

　それから、この都市基盤ということとはちょっと離れてしまうのかもしれませんけれども、H委員が

おっしゃったように、地域の人を生かすということ、大学生やいろいろな人を使うということをよく以前からおっしゃられていて、私もそれはとてもいい考えだなと思っているんですね。たまたま個人的なことになってしまうんですが、この夏休みに、息子たちの学校なんですけれども、たまたま100人ぐらいしか医学部なのでいないんですけれども、そのうち吉祥寺に２人自宅があり、うち三鷹に１人、あと武蔵境にも１人いまして、例えば医師になる前の下準備として病院に例えば介護の実習ということで、全くのボランティアで行くんですね。初めは大学生ですから、ええっなんて言いながら、でも実際行って１週間帰ってきて、家なんかに遊びに来ていて聞いていますと、やはりかなり意識改革というものがあって、いや、結構これからやっぱり高齢化社会とこれだけ実際耳にしていても、自分たちが行ってみて、目の当たりにして、やはり初めて感じるものというのは結構あったんだなと思うんです。そこでじゃどの病院に行ったのと言って、みんな彼らは武蔵野市民なんですけれども、武蔵野市の病院にはだれ一人行っていないんですね。何で武蔵野市の病院に行かなかったのと言ったら、まともに答えてくれないので、武蔵野市って病院あったっけなんて言っていて、そのような感じで、実際に行ったのは三鷹市の井の頭病院であったり、八王子の病院であったり、練馬の病院とか、そういうところに行っちゃっていて、せっかく武蔵野市の市民なのにこういう子たちを使えばいいのになと思ったりして、詳しい事情はやはり慶応の提携病院とか、そういうのはちょっとはあったのかもしれませんけれども、その辺はちょっとわからないんですけれども、そうやってかなりボランティアとか、あとは例えば救命救急でみんなこういうふうに行くとか、いろいろな活動はしているんですけれども、実際武蔵野市からのほうはこういうふうにやりたいとか、彼らが目にしないのかもしれないんですけれども、そういう大学生が活動できる場というのは実際余りないのかなというのは、もちろん彼ら自身はパソコンは使う、ホームページとか、いろいろ見るんでしょうけれども、でも例えばもっとみんなが集まるとき、お祭りであったり、駅前であったり、いろいろなイベントがあるときに、例えば武蔵野市の税金はこのような使われ方をしています、今度はこういうことをします、こういうことに興味がある方はぜひ参加してくださいということで、もっともっと市のほうからもアピールするということがとても必要じゃないかと思います。そのアピールということが同時に情報公開にもつながってくると思いますし、前回までは私自身は市民としてのまず自覚を持つ、私たちの無関心さがやはりそういうことに接点を持たないのかなというふうに思っていたんですけれども、それプラス、やはりもっと市のほうからもこういう活動をしていますということを、例えばパソコンを見ない方はわからなかったりする場合もございますので、もっといろいろなところに触れる機会がある、アピールの仕方も、例えば難しいと思うんですけれども、もっとほかのどのようにすればこういうことをしているんだと思って、ああ、こういう税金の使われ方をしているんだという、そういう活動の内容をもっとわかりやすく、例えばパネルにするなり、何とかするなり、そのようなふうにアピールしていけばいいんじゃないかなというのが、そういう感想です。

ということで、やはりこれでまちづくりということになると思うんですけれども、例えばここにどういう人たちが住んでいるというのは、やはり今個人情報ということで大変厳しくなってきていると思うんですけれども、でも実際、こういった場合には、緊急の場合であったり、いろいろな場合には今後役立っていくとか、あと地域に根ざすということにおいても、やはりもっと意識を変えていくというか、意識を変えるきっかけをつくっていくことが、もちろん家での教育としてでも大切ですし、市としてもそういうふうにやっていくという、共存ということですごく必要なのではないかなということで、一番基本的な都市基盤ということが何かあるような気がします。

以上です。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございます。
　いかがでしょうか、何か。

○B委員　すいません、さっき自転車の問題でいろいろ出てきたんですが、自転車の置き場ばかりをあっちに増やしたり、こっちに増やしたりするというのは、もういたちごっこですよね。ちょっと仕組みづくり、例えば隣の練馬とか、23区で、あとは目黒か、世田谷だかちょっと忘れちゃった……、世田谷かな、サイクルシェアというやり方ね。カーシェアリングはよく聞くんですが、サイクルシェアという、そういう仕組みも、前に企画政策室長が環境政策か何かにいらしたときにパークアンドライドの話を何かしたようなことをしましたよね。鎌倉がパークアンドライドで、まちの中に車を入れないという、そういう方法をやっているから、武蔵野はどうと言いに行った記憶が今突如よみがえってきたんですが、そういうふうに低炭素社会というのを今言われていますよね、いろいろな意味で。だから、例えば今、吉祥寺の車がすごく大変で、駐車場の問題なんかいろいろあるんですが、これはよくヨーロッパ地域なんかはやっていますが、一定のところは、さっきＡさんもおっしゃっていたのかな、タクシーが乗りにくいというふうにおっしゃっていましたが、逆にもう一定の外からでしか車は使えないという、そういうやり方もあると思うんです。武蔵野のように、本当に吉祥寺に来ていただくのはいいけれども、車でなくて、それこそ交通機関が発達していますから、田舎は車がないとすごく困るというところはあるんですが、都会ですから、やっぱり交通機関が非常に発達しているのをうまく使ったり、さっきＪさんがおっしゃったように、歩くとか、自転車１人１台自転車を持ったらすごく自転車置き場だらけで大変ですから、さっきのカーシェアリングで、朝は通勤の人がわっと乗ってくるけれども、今度昼間は外のまちの中を出歩く人に貸し出しをしちゃうという、つくばがそれをやっていますね。500円で１日乗り放題ですけれども。そうすると余り自転車置き場や何かを気にしないで、こことここととここの場所に置いておいてくだされば、あとはうまくやるというような仕組みがあるみたいなんですけれども、そういう方法は将来考えないと、武蔵野もちょっと大変かなと私は思いました。本当にいたちごっこですよね。この地域もそうなんですが、ある一定の時期が過ぎると、トラックでわっと運んで、集積所か何かに持って行って、なくなった人は探しに来てくださいというのもあるようなんですけれども、そうなるとちょっと大変ですよね。行政のもっとほかのところにエネルギーを使えばいいのにと私なんかは思っちゃうんですけれども。そういう無駄というか、何と言うか、余分な手間は省いて、市民もお互いに自転車１つをみんなで乗り合っちゃうという、そういう考え方も一つかなというふうに思ったのが一つと、それから道路をつくるときに、今いろいろなところで再度道路のつくり直しというか何かやっていますけれども、そのときに自転車と人間をうまく切り離す。さっきお話にあった、かえで通りですよね、深大寺のほうに行く道は。あそこが自転車レーンと、歩道がすごく広いんですよね。最初は車道をものすごく広くすると言ったんだけれども、それはやめて、自転車と人と別々に歩いたり、通行できるような、そういう歩道にしたらどうですかと、今人間と自転車は別々ですよね。だから、道をつくるときにすごくスペースが必要なんですけれども、レーンをちょっとだけ自転車と人とを分けるぐらいでも随分違ってくるので、そうすると自転車と人がぶつかったり何かするというのも少なくなっていくと思うので、そういう道路の仕組みづくりですよね。道路は武蔵野だけでなくて、市外にも走っているわけですから、市外からも来るわけですので、近隣とのそのあたりの多分話し合いはされているとは思いますけれども、そういう整合性があるようにしておかないと、武蔵野市内はこうだけれども、市外へ行くと何かとんでもないことになるとか、そうなっちゃうと困っちゃうなと思ったり、その辺の広域ですよね、広域行政ですよ、それもね。そういうことも必要だと思います。

私なんかは、特にごみの問題をやっていると、だんだん今ごみの量が少なくなってきて、それぞれの市がごみ処理場を持ってくると、お金はかかってごみは少ないと。それより広域で今後はやっていくという方法も今、新しいクリーンセンターの中で、将来の計画の中に広域行政についてというのも話をしているんですけれども、もう武蔵野１市だけで持つ時代じゃないでしょうというような、そんな話もしていますので、将来を考えるとそういうことも大事ではないかなと、一つキーポイントかなと、都市基盤について特にそれは日常的に考えています。

それと、町への愛着というので、確かに私が住んでいるところは三鷹の駅勢圏の中に入っているのですが、三鷹の駅の近くに住んでいるわけじゃないで、通り道ではあるんですね、電車の。北のほうなので、やっぱり緑町とかという話になってくると非常に興味があるんですけれども、三鷹の駅の近隣というか、ちょっと無責任で申しわけないんですけれども、人ごとになってきちゃうんです。だから、私はここの市民会議に入るときの公募の作文の中に、やっぱり13町あるんだから、13町のそれぞれの町の人たちが我が町意識を持たないと、このまちへの愛着というのはちょっと遠いなという感じがしないでもないので、確かに駅勢圏でもやるけれども、それぞれ13の町ごとの特色だとか、土地の活用や何か、用途についても全部違いますよね、町ごとに。だから一律にはちょっとできない問題なので、そこを考えたほうがいいと思っています。

以上です。ちょっとしゃべり過ぎましたけれども。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございます。

○Ｃ委員　今の最後のＢさんの各町で、だから自分の町のことを知ったり、考えたり、話し合ったりということを各町でするということだと思うんですけれども、今、都市マスタープランの策定をやっていて、もうしばらくで終わりますね。これなんかは本当はそのために今回は各地域ごとにワーキングをやったり、さまざまな仕掛けをしてはくれていたんですけれども、本当は住民のほうもこのあたりを意識して、やっぱり自分たちのまちの計画は自分たちでつくるんだという意気込みとか、誇りを持ってやっていくようなことに将来なるといいなと思っています。だから、都市マスタープランをつくられた後、やっぱりどのように活用していくというのか、過去の10年間で言うと都市マスが全然行われなかったわけではないと思うのですが、市民の目にはほとんど日常的に見えなかったということがあるんですね。だから、今後はやっぱり都市マスタープランが万全ではないんですけれども、やっぱりこの辺の点検というか、そこら辺も含めてやってほしいと思いますし、この中で非常に大きなのは、まちづくり条例ができたということだと思うんですね。まちづくり条例の活用はこれから始まると思うんですけれども、やっぱりこのことはもっともっとＰＲして、自分たちのまちを変えたり、あるいは守るときに、まちづくり条例が使えるんだということを根づかせていってほしい。そのようなことに向けてのことをやっぱり考えてほしいと思います。

ついでに言いますと、初めのほうでＥさんが土地の有効利用ということをおっしゃって、かなり三鷹の例とか、おっしゃっていたんですが、例えば吉祥寺南町で言うともっと小さいところ、例えば500平米だとか、あるいはそれ以下のいわゆる遊休市有地が何カ所もあるわけなんですね。それは利用の方針みたいなものを市役所で策定していらっしゃるという話までは聞いているんですが、やっぱり自分のまちで考えて、あの空き地はこういうふうに使いたいなというようなことが地域で盛り上がったら、ぜひそれを大切にしてほしいと思うんです。何かの計画のために買った土地だとは思うんですけれども、代替地というようなことで、今まで過去十何年使われていなかったとしたら、これからまた10年ぐらい使

われないかもしれない。そういったところについては、とりあえずそれが使われるときまで、市民が有効利用するようなことをやっぱりもっと大らかに認めてほしいと思います。私たちも随分要望を出したりなんなりしたんですけれども、全部だめでした。今後は何かいいご返事があることを期待しています。それは私たちだけではなく、そうやって市民が一生懸命ああしよう、こうしようと思って考えたこと、そういった芽をやっぱりつぶさないでほしい。もう一言言うと、これこれをこれこれに使いなさいとか、これこれしろということでは、市民は本気では動かないんです。自分たちが考えてこれこれしたいということ、それがすべて実現するわけではないんですけれども、これこれしたいということを市とやっぱり話し合った上で折り合いがついた場合に、市民のこれこれをしたいという気持ちがやっぱり原動力になると思うので、その辺のことをぜひ、はっきり言えば意識改革してほしいと思っております。

○事務局（企画政策室長）　ちょっと２つ申し上げますけれども、１つは、今、Ｃさんのおっしゃったことで、クリーンセンターからコミュニティセンター、テンミリオンまで、いろいろな公共施設があるんですね。ですから、ウェルカムの施設から、いわゆる迷惑施設、それから地域の方が望んでいらっしゃる施設から望まない施設、だからそういうものをどう適正に配置していくかというような目も必要なんですね。ですから、それは両方の視点からどう議論していくかということを我々常に考えているんですけれども、その辺がやっぱり我々の一番の悩みの種でもあるんです。当然地域の方に喜んでいただける施設。暫定利用の話も出ましたが、一度公園で暫定使用したときに、これは役人根性なんですけれども、じゃ次に何か大きな箱を建てられるときのエネルギーの辛さというのが、我々道路を引くときだとか、清掃工事を建てるときは常に感じていますので、長期的な暫定使用というのは率直に申し上げて非常に決断が要るんですね。だからそのあたりのやっぱりよく話し合うとか、暫定なんだというような情報も含めて上手に共有していかなきゃいけないなというのは常々考えているところなので、ご指摘のとおりなんですね。

○Ｃ委員　暫定使用と今思っているのはごく狭い土地なので、大きな施設は建たないわけです。でもいつかは何か、市有地なんだから、市がお使いになると思うんですね。そのときに半年なり何なりのあれがあるにしろ、お返しするということは100％住民は承知しております。そこは信用してほしいと思います。

○事務局（企画政策室長）　わかりました。
　あともう一つ申し上げたいのは、緑とそれから駅前の広場と自転車の関係で、武蔵野市の特殊性を申し上げますと、非常に立派な駅が３駅均等に並んでいるわけですね。どうしても駅に向かう住民が圧倒的に多いんです。ですからそれが自転車問題の最たるもので、乗り入れのベスト10に２つ入っているんです、全国の。ベスト20に３駅とも入っているぐらい自転車の乗り入れが多いんです。だから、市民の行動範囲がみんな駅に向かって流れ込むという構造になっていまして、市のほうでも、その都市構造そのものが非常にお金のかかる構造なんです。駅前の広場を開発して、自転車置き場を整備するというようなのが、実は、３駅あるんですけれども、北と南にみんな駅前広場が６つあるはずなんですけれども、三鷹市さんは１つなんです。５つの駅前を持つということは、その自転車置き場の話から、駅前広場の投資の面から非常に大変なことなんですね。引っくり返すと、当然固定資産税の高い土地ですので、税収も上がってくるんですが、だから武蔵野市の特性としては、駅前広場をどうするかというのが長年の大きな課題、それも５つある駅前広場をどう整備をしていくかというのは非常に大きな課題なんですね。

そこで、ロータリーの話なんですけれども、ロータリーを緑豊かにすると、Ｉさんとか、Ａさんがおっしゃっていましたけれども、ロータリーをどうつくっていくかというのは大きな課題です。それはこのあたりの緑が少ないという話もきっとここにタワーが２本建って、周辺に、まだ木は小さいんですけれども、これが10年たって、15年たてば、相当の大きな木には育ってくるわけですね。駅前の広場だとか、駅前の周辺をどう整備していくかというのは今大きな課題だということで、皆さんのお話を聞いていると、まさしく皆さんの関心のあることが、今、市役所の中でも、議会でも議論されている部分だということだけちょっとご紹介しておきます。

○事務局（企画調整課長）　どうぞ。

○Ｅ委員　今、自転車の話が随分議論が出ておるわけですけれども、過去ずっと市民ニーズ調査でも自転車の問題というのは重要度は常に一、二番目に高くて、不満足度も一、二番目に高いという状況がずっと続いているわけですよね。これをパッチワーク的に対処療法で何か土地の高いところで自転車置き場をつくってということだと非常にコストがかかって、行政としてはやり切れんというのもよくわかるんですけれども、先ほどＢ委員もおっしゃったように、やっぱりちょっと発想の転換みたいなことで、どう自転車を活用していくのか、あるいはどう規制していくのかということをちょっと一から考えてみるタイミングなんじゃないのかなというふうには思いますので、ぜひそこは考えていただけるといいのかなというふうに思います。

それからあともう１つ、先ほどからいろいろな意見が出ている中で、ちょっと総合的に考えてというか、関連しているなと思ったのが、既存の施設を有効活用という話とあとＩさんからプラザがみたいな話とか、Ｂ委員が今日配っていただいた資料にも縁側みたいな話があって、私も前にオープンカフェみたいなのがあればいいですよねとか、どなたか前に中世の広場なんかがいいんだみたいな話があって、かなり皆さん共通問題として、何かそういうぼやっとした、境目みたいな人が集まる施設というのがあるといいんだよねというのはかなり共通認識だと思うんですよね。

そうした中で、私自身そう言いながらも、じゃ具体的にそれってどこにどういうものがあったらそういうぼやっとしたものってあり得るんだろうというのがよくわからなかったんですけれども、すごく今日ヒントとして、ああ、そうかもなと思ったのが、Ｇ委員のおっしゃられた待ち合わせスペースで、吉祥寺の東急の裏のスターバックスカフェ、今もありますかね。あそこなんかは非常に人がいっぱい集まっている感じがして、アメリカの東海岸や何かでもチェスの模様が書いた石といすがいっぱいあって、それは別に行政も掃除するわけじゃないんだけれども、来てみんながチェスをやったり、何となくたむろしていたり、だけど石だから長い時間座っているのも疲れるので、すごく長居をするわけでも、たむろするわけでもないみたいな。そういうのって一つあり得るスペースなのかなと。しかも幸い、武蔵野市は３駅みんな駅前に大きな市の施設がありますよね。吉祥寺の公会堂ですか、三鷹でも伝統芸能の芸能劇場があるし、武蔵境にもスイングですか――あって、たまたま武蔵野市の近辺には渡辺竜王とか、藤井九段とか、有名な加藤一二三とか、将棋のすごく強い人とかがいっぱいいるじゃないですか。そこに、チェスじゃないですけれども、将棋盤とかあって、何か自然とやったりしていると、孤立を避けるみたいな話も先ほどちょっとありましたけれども、将棋が好きなおじいさんとかは結構来たりするかもしらんなと。若い人たちも何となく待ち合わせするのにも使ったりみたいなことがあってもいいのかなという気もちょっとしましたので、ちょっとすいません、時間が押している中、ちょっと思いつきなんですけれども。

○事務局（企画政策室長）　コミュニティが今、Ｃさんとそれから Ｂさんがおっしゃっていた13町ある地域ごとというお話が先ほど出ましたよね。それからこの前はもっと小さい単位。それが先ほど私が申し上げたかったのは、３駅にほとんどの市民の目が、流れも集約しますし、それから意識も駅に向かっているんですね。だから、そういう状況の中で、ＢさんやＣさんのご意見というのはどういう形で生かされてくるのか、そのバランスの問題をどう考えるのかというのを我々よく話し合っているんですね。

ですから、よく武蔵野市役所で話すのは、それぞれのコミュニティの話と、その上の段階としての３駅圏をどう考えるかという話ですよね。コミュニティや集う場所の話のときに、３駅圏の役割とそれからコミュニティの役割をどう考えるのかというのが、割と最近みんなでよく話し合うんですね。どうしても意識、ほとんどの市民の方は自転車の動きと同じで、全部駅に集約するし、買い物もそうですし、目が全部駅に集まるわけですよね。それとやっぱり地域の活動というのはそれぞれテンミリオンハウスの単位だったり、コミュニティセンターの単位であるわけで、その辺の意識というのは皆さんどうなのかなと非常に私は関心があるんですけれども。

○Ｆ委員　13町の地域に根づいているのはやっぱり女性であったり、高齢者であったり、働きに出ていない人なんじゃないかなと。やっぱり駅に向かうというのは通勤・通学、ルーチンで毎日どこかに行くという人が駅に向かって、本当に地域に残っているのは子供を抱えたお母さんであったり、高齢者であったり、そういう人がやっぱりそこのそれぞれの13町の中でどんな活動をしていくというような感じに私は思うんですけれども。だから、Ｅさんのおっしゃったような、そういう待ち合わせ場所もいいんですけれども、やっぱりこの前の傍聴意見にもあったような丁目ごとの小さなちょっとした寄り合いスペースのようなものというのは、とても私は、弱い者と言うと変ですけれども、高齢者やそれから小さい子供を抱えたお母さんにとっては優しいのではないかなというふうに思っています。

○事務局（企画調整課長）　どうぞ。

○Ｃ委員　それぞれがやっぱり役割分担があって、それぞれが必要だと思うんです。今、コミセンはもう全部できていますよね。だから、今の駅前広場みたいな、プラザみたいなものはちょっと意識すれば簡単にできるかもしれないものですね。

あと、今、Ｆさんもおっしゃいましたけれども、今はテンミリオンハウスの数が少ないんですけれども、初めに発想されたときの各丁目に１個ということは、気軽にお年寄りでも、子供連れでも歩いて行けるような、そういったような小さな範囲の中にあるたまり場、居場所、これがぜひできることで、そこでまたやっぱりある意味で言えば、非常に動きながら、なおかつ濃密なコミュニティができると思うんです、小さな。私はそのことがまちの中のコミセンのコミュニティに反映していくというか、つながっていくというふうに今感じているわけです。コミセンが、ちょっとさっきＩさんの言葉に、前のときにも話した話なので反論はしなかったんですけれども、私は三十何年間、成果はそれぞれいろいろあるにしても、頑張ってきたその辺の成果を持っていると思うんです。ただ、みんなが曲がり角だと思っているのも確かで、それを一層発展させるためには、もっと小さな居場所というのが、コミセンにとっても役に立つし、それ以上にそれぞれの町の中のおっしゃったような足の弱い人、子連れ、お年寄り、さまざまな人にとって役に立つ。そこへ行って将棋を指したり、お茶を飲んだり、コーヒーを飲んだり、あるいは自分のうちでつくった野菜を持って行って味噌汁をつくったりとか、どんな使い方でもできる

ようなところという、そういうものはやってみる値打ちがあると私は思っているんですね。全部一ぺんにできっこないから、できるところからやってみるということも含めましてね。

○事務局（企画調整課長）　ちょっといろいろな意見が出てきておりますし、コミュニティだけじゃなくて、２回目、３回目、４回目と３回にわたっていろいろな意見をいただいているわけですが、当初の皆様の作文にもあったまちの愛着とか誇りってどうやったら持てるのかみたいな話をちょっとしないと、余り施設だとかという話ではないのかなと思っているんですけれども、その辺はどうでしょうか。コミュニティも含めてだとは思うんですけれども。

○H委員　私は今、何回も言いますけれども68歳なんですよね。わんちゃんのお散歩屋という仕事がなかったら、何もやることがないんですよ。だから、あるからお散歩屋にわんちゃんと行って、飼い主さんと話している。それでコミュニケーションをしているんですよね。それから、月に１回は、この前も武蔵野商工会議所でみんなで集まって勉強会をやっているんですよ。仕事があるからやっているんですよ。だから、仕事は何とかして継続したいから苦労しているんですよ。だから、私は一番コミュニティ、それから私はハードには本当に気にかからないんですけれども、お年寄りも障害者も孤立させない、要するにつまり仕事を探して、それが市の役割だと思うんですよ。仕事を見つける。だから、一人一人の意見を聞いていたら、それはいろいろありますよ。だから、とにかく仕事があれば午前中３件、午後２件あれば立てますよね、計画を。あの人に会ってこうしなきゃいけない、じゃ今度はこういうプレゼンテーションをするということでやりますと、その人と話をして、それでありがとうございました、ありがとうございました、この繰り返し、これでコミュニティですよ。私はコミュニティセンターも、もちろん極端な言い方ですけれども、必要ない。仕事さえ見つかれば。そうすると、その人と毎日対話して、月に１週間集まって、２週間に１回ぐらいお茶を飲んだりして、会合ができると。だから、一番大切なのは、武蔵野市市民全員がお金をもうけるんじゃなくて、働く場所を市がつくれば、私は大きなコミュニティ、要するに武蔵野市にいていいなと、友だちができますから。

○事務局（企画政策室長）　Hさんがおっしゃっている仕事というのは、相当概念の広い仕事の意味ですか。

○H委員　いえいえ、ありますよ、幾らでも。

○事務局（企画政策室長）　よくわかりました。

○H委員　だから、ばかにならなきゃだめですよ。だれが何と言ったって進めなきゃだめでしょう、何だって。私がお散歩屋をやるときは、大反対された、外部の人から。そんなことないんじゃないかと。だけど私は15年これで食っていますよ。だから、だれかがばかにならなかったら、絶対ことは進まないんですよ。だからぜひ市にそれを要望しますね。

○事務局（企画調整課長）　誇りとか、魅力だとか、愛着だとかというのはすごく大事なんだと思うんですけれども、どうやったら……、たしかG委員の作文にあったと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○G委員　今、愛着があるまちというのはどんなまちかというご質問があって、改めて考えて、結局まちと言っても、まちの設備だとか、制度だとか、そういうことじゃなくて、最終的に究極私たちが愛着を感じるとしたら、それは人だと思うんですね。だから、人との交流――僕は何度も交流、交流と言っているんですが、改めて考えてみると、愛着が持てる、武蔵野市で、私がこのまちに愛着を持つとしたら、そこにいる人々との顔を思い浮かべて、その人々と交流があるからこそ愛着を持てるんだから、やはりそういうふうに考えると、やっぱり交流ができる、しやすい、やっぱりみんな孤独で人々がここで住んで、買い物をして、食べて、そして働きに行くと。だけど、実はこのまちで孤独に暮らしているというのが多くの場合の現状であると。いろいろな人がもちろんいますけれども。そういう人たちが隣の人と、あるいは３軒向こうの人と交流ができるようになれば、それはこのまちに対する愛着が生まれてくるんじゃないかなと今思ったんですが、どうでしょうか。

○事務局（企画調整課長）　どうぞ。

○D委員　今、交流という話が出まして、私はこの愛着のあるまちとか、憧れのまちというテーマについて、だれにとっての憧れか、愛着かということをやっぱり議論を進めていく上では考えることが大事だと思っています。Hさんとか、Gさんから武蔵野市民にとって愛着のあるまちという話を今いただいて、私は一方で、やっぱり長期計画とかを考えるに当たっては、市を越えた発想が私は大事だと考えております。やっぱり武蔵野市に憧れるというのは、決して武蔵野市民だけじゃなくて、関東圏であったり、あるいは日本圏であったり、そういったことが武蔵野市の交流を深めるきっかけになると思います。

例えば、私は大学に入る前までずっと福岡に住んでいまして、福岡から見た場合に、東京でなかなか武蔵野市のイメージって情報が伝わってこなかったんですよ。やっぱり東京と言えば銀座とか、日本橋とか、浅草とか、新宿とか、そういった場所が思いついていて、やっぱり高校まで、東京を訪れるときはなかなか武蔵野市に行ってみようとか、憧れというのはなかなか持てなかったんですね。

やはり憧れのまち、愛着のあるまちをつくるために、やっぱり武蔵野市民だけじゃなくて、ほかの人から見ても、武蔵野市って憧れる、いいよねと思ってもらうことは、それは武蔵野市民にとっても誇りを持てると思うんですね。先ほどＩさんが、武蔵野市っていう文字を見ると、自分は好きだと。そういった誇りを持つ、促すことになると思うんですね。そういった意味で、日本から見て、あるいは国際的にも交流をしていますけれども、日本から見て武蔵野市に憧れるようにと思うことを考えることも一つ重要だと考えています。

そのための具体的な提案としては、例えば武蔵野市は友好都市というのを日本の中に９つ持っていまして、その中でもっと増やしたらどうかというのが私の率直な提案です。例えば日本の中で西で広島県のある町までしか友好都市がないんです。そこから西は友好都市とかなくて、あるいは北海道とかにも友好都市はなくて、やっぱりそういった友好都市を持つためには、やはり交流のためにお金とか要りますけれども、やっぱりそういった交流都市を増やすことでより武蔵野市のイメージを持ってもらうとか、そういったことって大事だと思います。具体的事業としては、交流ツアーとかというのをいろいろ市間を越えてやっていたりとかして、やっぱりそういったことで実際に武蔵野市のイメージを持つ、例えばそういったことを子供時代に体験しておくと、じゃ東京に大学とかで出てきたときに、武蔵野市に住んでみようとか、やっぱりそう思うきっかけになって、そういった武蔵野市のブランドを日本全体で上げることができるきっかけになると思うんですね。そういった意味で、憧れのまち、愛着のあるまちを考

えるに当たって、武蔵野市民にとって、そして市間にとっても考えるということが議論を深める上で大事だと思います。
　以上です。

○事務局（企画調整課長）　いかがでしょうか。

○Ｉ委員　おっしゃるとおりで、結局昔、外国人が初めて日本に来て、日本人というのはいい人だと、こういう国は生き残ってほしいと言った人がたくさんいるんですね。だから、そこに来て、すっと人柄がわかるようになればいいですね。だから、武蔵野市の人柄、これはちょっと話しかけても、だれに話しかけても温かく応じてくれるとか、にこっと笑ってくれるとか、そういうのが非常に大事なんですね。それから、ちょっとお節介なぐらい親切な人もいたりしますけれども、それもいい印象を残すんですよ。だから、もっとあいさつを、それから声をかけるというのを気楽にやる雰囲気をつくるべきじゃないかと。だから、私なんかも知らない人と道ですれ違っても、犬なんかを連れていればもう話題にして、おお、かわいいですねと言って、ええと、こうなるんですね。私も飼っていましてねとか、そういうのでできるわけですよ。だから、あいさつをするというのは、子供たちには徹底してほしいですね。若い人は特にグループの中と外はもう外国人になっちゃっていますよ。だから、ああいうものをね、またそれがいじめにつながるんですよ。だから、お互い気さくにあいさつし合い、ものが言える、そういう雰囲気をまち全体につくって。まちの中にパトロールしている方とか、いろいろおられますね、市の帽子をかぶって。ああいう方と話したときに、温かくにこっとしないんですよ。だから、そういうところどころを全部教育をしておかないといけない。
　それで、道徳教育と言うとみんな身構える人はものすごく多いでしょう。だけど、道徳じゃなくて、いわゆるモラルですよ。常識というもの。Ｊさんなんて外国に行かれて、いろいろなモラルというのを感じないでしょう。だから、そういうモラルを、お行儀ですね、それをきちっと教えてくださるとかなり違う。それをやれば自転車も変わりますよ。困るのは子供たちですからね。それを丁寧にやれば子供たちが人とどう接するべきかと。だから、乳母車とすれ違うときに、私はその前でとまるんですよ、歩道ではね。それで通していく。そこをぴゅっと通るんですね。それは多いですよ、そういうのは、子供たち。だから、自由に勝手にやるというのは、それはほどほどの教育にしないと、成り立ちませんよ。それをきちんとコントロールして教育するというのが武蔵野だとなったら、来られた方が学生さんに言葉をかけても、ものすごく親切に温かく応じたと、そういうのがまちの評判になるわけですよ。その市民の大部分がそうなったら、それはもう絶対強いですよ。だから、そういう感じを、市もその気で、市役所に行って、皆さんにこにこ笑って、徹底的に付き合ったりする人としない人といるんですよね。だから、これはやっぱりそういうものをやらなきゃいけないと思う。
　それから、ちょっとついでですが、自転車ですね。あれは駐輪場が市はものすごく努力していると思いますよ。よくあれだけ年々改善してくると。それは100点にはならないですよね。でも、市はよくやっていると僕は評価しています。問題はルールですよ。それでこれは基本的には車両は左、人間は右と、これがまず混乱の最初なんですよ。これは皆さん方知らない人が多いですけれども、日本は本来、人は左だったんですね。車も左。これは進駐軍が来て、ぼんぼん突っ走ろうと思ったら、後ろから追うから危ないでしょう。だから、人間は右側を歩いて、車が来たらよけろと。そのための右側通行なんです、歩行なんです。だから、それが残っちゃったんですね。今は何にも疑問も感じない。だから、駅では左側通行でしょう、電車が左だから。だから、右左が混乱していますからね、歩行者が混乱を起こすのは

当たり前なんですね。それで歩道について伺ったんですよ。歩道で歩行者は右側通行、右とか、左とかを分けていますかと。そんなルールはありませんと、歩道は勝手になっています。だから、見ていますと横断歩道、めちゃくちゃです。あれが整理されたらすっと行きますね。それがざざざっとなっていますね。そんなので、混乱がこの辺から起きていますよという話。

○事務局（企画調整課長）　今回のテーマの一つに愛着というのがあると思うんですけれども、すいません、私が勝手なことを言うと申し訳ないですけれども、愛着ってある日突然起こるものではなく、きっと毎日の積み重ねの中で出てくるものだと思うんです。皆様の愛着というのがどうやったら起こってくるのかと、結局武蔵野市の生活の根源の話になっていくと私は思うんです。ぜひどうやったら愛着をもてるか、それは地元のコミュニティの話だったりいろいろなものが出てくるんじゃないかなというように思っているんですけれども、すいません、Ａ委員、いかがでしょうか。

○Ａ委員　愛着と言われてずっと悩んでいて、会社に行って、住んでいるのはどこですかと、吉祥寺と言うと、いいですねと言われるんですよ。いいですねと言われたときに、すいません、武蔵野市というところではないんですけれども、吉祥寺と言われたときに、どこがどういいんだろうなと思いながら今考えていくと、確かにイメージ的にはすごくいいらしんですよね、やっぱり。住みたいまちにもトップにずっときていますし、でも住んでいる当人からすると普通でしかないので、そこはどこがいいんだろうなと言うと、一番……、微妙に言うと固定資産税高いしなとか思いながら、駅の周りは結構自転車がすごいしなとか思いながら、でもみんなうらやましいとは言われるんですよ。どこがどういいんだろうなと思いつつも、最近個人的にちょっと残念だなと思ったのは伊勢丹の撤退と三越がなくなって、ヨドバシになったというところはまあいいんですけれども、今、何か吉祥寺といっても、非常にそこの部分で集客的なところは落ちているのかなと思っているんですね。明後日でしたっけ、アトレがオープンするのは。10月の半ばにはまたＦＦも復活するから、また人が戻ってくるのかなと思っていて、それまではちょっと見ていればまた戻ってくるのかなと思いながらも、それでまた吉祥寺としてのブランド力みたいなのはまた上がってくるのかなというのは気にはしているんですよ。

　あと、吉祥寺というか、武蔵野市全体に多いのが、武蔵野市自体に万遍なく人が分布しているから、お店が攻めにくいというのは聞いたことがあるんですよね。要はどこかの世代に特化した人たちがいないから、そこに対してターゲットを絞り込んでお店が出店ができないというのが言われていて、そう考えていくと、逆に言うとすべての世代にとって住みやすいんだろうなというのはある意味強みなんだろうなと。そういうところをもうちょっと今後10年間でよりすべての世代が住みやすくというところで、子育てがしやすいとかもひっくるめたところで、多分お年寄り対策はすごく充実はしていると思うんですよ。ムーバスなんてすごく日本中から見に来るぐらいですし、そういう点で考えていくと、もうちょっと子育ての部分で先進的なことをやってくれると非常にありがたいのかなと。そうすると、やっぱり若い人が今定着しにくいという部分も多少無理してでも定着しやすくすると、もうちょっとまち自体が若返るのかなと。そういう政策をとってもらう、政策的な部分のところでそういうのをしてもらえれば、多分まち自体がもっと活性化できるのかなというのは思うんですよ。だから、そうしてくると、やっぱり愛着というのはもうちょっとまた出てくるのかなと。おっしゃっていたとおり、さっきの人だというのは間違いないんですよ。だからそういうところもありつつも、やっぱりリアルなところを考えていくとやっぱりそういうのも必要なのかなと。

○事務局（企画調整課長）　いかがでしょうか。

○Ｆ委員　Ｇ委員もまちの愛着は人だというふうにおっしゃったんですけれども、もちろん人もなんですけれども、私は市民歴が13年なんですけれども、もともと関西のほうの出身で、東京にも余りなじみがなく、ここに来る前は杉並にいたんですけれども、今、吉祥寺に住んでいるんですけれども、武蔵野の魅力ってやっぱり歩いて回れる、歩いていろいろなところに行ける。公園もあるし、それから商業スペースもあるし、ちょっと行くと閑静な住宅街が広がって、歩いて映画館に行ける、コンサートホールに行ける、図書館はあるし、美術館はあるし、もうそういうところに、ちょっと小さなミクロコスモス的に、本当についこの前まで子供が小さかったりすると、吉祥寺で何でも済んでしまう、もうここで全部完結するという、そういうところも含めてやっぱりまちの愛着だと思うんですね。

武蔵野らしさということをよく武蔵野市に長くお住まいの方に聞くときに、武蔵野らしさって何なんだろうかなというふうに私はいつも思うんですけれども、やっぱりもちろん住んでいる人の温かさとか、礼儀正しさとか、そういうのももちろんあるんですけれども、それだけじゃなくて、緑が多いとか、それから文化施設がいろいろあるとか、便利であるとか、いろいろなことが複合的にやっぱりまちの愛着として私は感じます。まちの愛着をどうしたらもっと持てるかというのは、やっぱりコミュニティに関わっていくこと、自分たちがこのまちをつくっていくんだとか、このまちをもっときれいにしていきたいというふうな意識をやっぱり持つことがやっぱり愛着をもっと育てていく、やっぱりそういうことが絶対必要なんじゃないかなというふうに、ただ単なる消費者として、コンシューマーとしてここにいて、お店に行ったり、買い物をしたりと、それだけじゃなくて、自分も何かをつくっていく、そちらのほうの立場に立たないとやっぱり愛着というのはなかなか生まれてこないんじゃないかなと思います。

あと１点、Ｄ委員がおっしゃった市民以外の方もまちの愛着というか、まちの魅力についてやっぱり関心を持たれているということで言うと、在住の方だけじゃなくて、在勤、在学の方、武蔵野市の市民ではないけれども、武蔵野市に関わっている方、そういう方もまちづくりに何か関わるとか、そういう方の思いとか、そういうのも何かあるのではないかなと思うんですけれども。

以上です。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございました。

どうぞ。

○Ｅ委員　人の問題はもちろん一番大事で、ちょっと人以外の部分にスポットを当てて考えたみたときに、私自身いろいろ引っ越しとか、転勤とか、子供のころしていて、ノスタルジーを持って思い出す原風景、愛着感みたいなものって、どういう風景で思い出すかなと思うと、仮にどんなに都心に住んでいたときも、自然が絡んだその地域独特の風景でしか思い出さないんですよ。例えば今の武蔵野市で言えば、成蹊大学の横に住んでいる人とか、あるいは中央公園に向かっていく廃線の跡の遊歩道の近所に住んでいる子供たちとかは、多分大人になってもそのときの風景を思い出して、ああ、おれはあそこに住んでいたよなと思うと思うんですけれども、自分の息子が今中町一丁目に住んでいて、中町新道は何か電柱も地中化したしとか、絶対思い出さないと思うんですよ。前にちょっと独特の風景景観を持ってみたいなことを意見で言わせていただいたことがあるんですけれども、やっぱり自然だからこそ独特の風景があって、それと絡んだ記憶みたいなものが、大人になって住んだところでも、やっぱり大通りの風景って、全然ノスタルジックに思い出せないんですよね。だけど、小さい公園でも、何かその近くにあ

った裏山とか、そういうところのほうがなつかしく思い出すみたいなところというのは、一つ大事にしていいのかなというふうには思いますね。

○事務局（企画調整課長）　どうぞ。

○B委員　今、Eさんがおっしゃったこともあれなんですが、さっきＩさんが落ち葉の季節には落ち葉などを掃いて、きれいにしながら、そういうようなところからというようなことをちょっとおっしゃったんですが、私の住んでいるところは非常に緑豊かな団地なものですから、そこで生まれて育つ子供たちは、多分緑いっぱいのところで、雪が降ったらぱっと一番初めに足跡をつけるとか言ってとんでいくような場所なんですけれども、そういう意味では非常に幸せなところにみんな住んでいると思います。最初はやっぱり落ち葉ですね。もうあれが本当に秋になると道いっぱいに落ち葉だらけで、すごく大変だったんですが、ある時期に武蔵野市の最初は青少協だったのかな、市内一斉清掃というのを、そういうのを市のほうで打ち出されまして、やり始めの当時はまた面倒くさいことをとかと思ったんですが、それがもう今何年かたって、今、私たちの団地ではそれが楽しみになっているというのが実はあるんです。本当に歩けるか、歩けないかわからないような小さな子も、一緒に家族で落ち葉を掃くでしょう。その落ち葉で遊ぶんですよね、早い話が。落ち葉のプールというの、そういうので遊びながら、自然のそういう風景とか、そういうものと遊ぶということによって、毎年、年に１回だけ一斉にうちの団地もそういう落ち葉掃きの清掃をするんですが、それがもうおもしろがるという、そういうふうに変わってきたというのをやっぱり何かそれぞれのまちごとに、何か特色があると思いますよね。そういうのを見つけ出して、そろそろ落ち葉掃きの季節だねというような会話が聞けるようになるというのは非常にうれしい話だし、一時期は、今は余り煙を出すといけないから、怒られちゃうからやらないですが、焼き芋をやったりいろいろしておもしろがったんです。それは昔、そういう経験があるお父さんたちがこうやって焼けば芋はおいしく焼けるとか、能書きまでいろいろ教えてくださって、そういうふうな経験もしてきたというのがあるんですけれども、やはり人と人の問題なんですが、つくり出しておもしろがるという、そういうきっかけづくりも必要じゃないかなと思いますし、それから自分たちでなかなか見つけ出せないときは、いっそのこと市がいろいろ行事をやったり何かする中に乗っかっちゃうと、最初はね。それを続けてやっていくうちに、伝統になってくると言うんでしょうかね、さっき企画調整課長が、愛着がある町はすぐにできないと、やっぱり積み重ねによってでき上がっていくものなんじゃないんですかというふうにおっしゃったのはまさにそういうことかなと思って、最初はこんなにうざったいなと思っていたことが、今じゃ楽しみになって、隣近所としゃべりますからね、落ち葉を掃きながら。コミュニケーションができるし、最後に、これは自治会でやるんですが、キノコ汁まで提供するという。そのときに防災課からアルファ米をちょっと提供していただいて、それも簡単にお湯を入れるだけでできますから、それを食べながらみんなでしゃべるというのが、すごく人と人との結びつきをしているし、隣の人は今まで知らなかったけれども、落ち葉掃きをやるうちにお知り合いになったとか、そういう関係ができ上がっていくので、何かやっぱり仕掛けないとなかなか難しいものもあるのかなと。都会だからなかなか難しいなというのもあるのかなとは思ったんですけれども、私たちの住んでいるところでは、そんなことをして、愛着のあるまちというので、ただ、愛着はいっぱいできてきたけれども、家賃が高いから出て行っちゃう人もいるんです、中には。それは本当にどうしようもないんですが、でも、そこに住んでいる限りはみんな一緒に楽しくやろうと、そういう意識は結構強くなってきているなとは思いますけれどもね。だから、これは例ですので、皆さんにやりなさいという、そういう話じゃないんです

けれども、たまには武蔵野市もいいことをやるじゃないと今では思っていますけれどもね。

○事務局（企画調整課長）　どうぞ。

○H委員　私は４回目なんですけれども、ずっとお話を聞いていますと、大体言わんとすることはみんな同じなんですよ、情報を聞いていまして。何で４回、５回やるのか、僕は本当に無駄でしようがないと思います。

　だから、もうそろそろ、そんなことを言うならやる、何かを１つでもいいからドゥーする。幾らだって、それはまちのどこがいいかというのは、やっぱり住めば都ですよ。それで隣近所にいい人が住んでいれば、ああ、いいなと。学生だったら、いい友達がいたらいいなということだけで、そこから答えは出ないだろうし、だから私はずっと今聞いていて、１回目と、私の記録とも同じですよ。同じことを言っている、１回目と。同じですよね。変わっていませんよ。だから、１ページ目に書いたある要旨が私の考え方であって、何でこれを１回、２回、３回、４回とやるのかなというふうに無駄を感じます。それよりもまずドゥーすべきだと思います。一つでも、何でもいいですから。

○事務局（企画調整課長）　そういうご意見も含めて、５回皆様といろいろな意見交換をさせていただくと。

○H委員　私の意見ですから、こういうしゃべり方ですから、誤解しないでください。

○事務局（企画調整課長）　そういう趣旨ですので、よろしくお願いいたします。

　どうぞ。

○Ｊ委員　今、愛着ということで、もちろん長く時間がかかった愛着もあれば、私は今まで13回引っ越しをしていろいろなところに住んでいるんですけれども、その場その場ですごく愛着をすぐに感じてしまうんですね。こちらに引っ越してきても、まずこの会議に出て、個人個人どこが印象に残るかというのはかなり違ってくると思うんですね。私はただ、これもちょっと飛躍し過ぎる話なんですけれども、すごく今、市の方からのお話で印象に残っていたのは、武蔵野市の職員の方が４分の１だけが市民だとおっしゃっていた言葉がすごく印象に残っているんです。例えば、皆さん、ここでちょっと考えていただきたいのは、例えば武蔵野市の市長が武蔵野市民でないと言うと、ええっなんて思われると思うんけれども、武蔵野市の市役所の職員の方が４分の１しか市民じゃないということをお聞きになってどう感じられるかなということなんですね。例えば、そういうのが悪いとか、そういうことは……、もちろん事情があるので、ただそれが私はそのとき、感じ方もいろいろあるように、１つの愛着の仕方として、ああ、そうなんだ、じゃ納めた税金、公務員というのは国民の奉仕者であるということを小学生のときに習った言葉をすごく思い出して、税金の使われ方、４分の３の税金がそういうふうに市外に持っていかれちゃっているんだというふうに思ってしまったんですね。かなりの税金の無駄遣いだな。例えば、今後、武蔵野市でもやはりかなり優秀な方は、働いていない方でもたくさんいらっしゃいますし、Hさんがおっしゃるように、そういう方がもちろん市の人で運営していくということも一つのやり方というのが具体的に、もちろん人とのつながりは大切ということはいいんですが、じゃHさんが一緒にドゥーであり、具体的にどのようにするかということが問題なわけであって、じゃもっと市民の方を、例えば

美術館であれ何であれ、受け付けだっていろいろできるわけですよね。こういう方を採用していくとか、いろいろあると思いますし、あとは例えば市民の方も実際、これを例えば職員の方を優遇するとか、そういうのではなくて、空き地に、今はもう一般企業は社宅など持たない時代ですから、あれなんですけれども、武蔵野市の方も例えば新しい試みということで、実際に市で生活してみる。そうすることによって、こういったことをお話は聞くけれども、実際はこうだなということも見えてくるし、そういうことを武蔵野市として取り組みをしていますということを小学校の社会として教えていって、印象づけるということが、小さいときに住んでいた自分の武蔵野市ということはこういうことをやっていたということが、緑だけではなく、すごく心に教育ということは残るんですね。やはりいつも最後まで身から離れないというのは教育であって、いつも心に残っているのはどのようなことを人がしていたか、人にされたか、自分がどうしたか、体験して、目で確かめて、自分で感じ、それに報いて初めて人のために尽くすということ、人のために役に立った、こうできた、自分もよかったということが残って、子供のころの経験になると自分の体験から思っていますので、いろいろな試みをして、例えば市の職員の方も、じゃ市の社宅みたいなのを建てて、こうやって見て、もっとこういうふうに道路はすべきだ、何とかというのも、少し大げさな意見なんですけれども、そういった試みもあるということで、ただ言葉として憧れるまちじゃ、実際どうするかということで、憧れるまちをつくっていくには市民の意見もあるし、市の人の、例えば働いている、計画を立てる立場の人には考え方も違うと思いますので、そういうふうでいろいろ意見を活性させるということがとても市に対する愛着なのではないかと思います。

○事務局（企画調整課長）　ありがとうございました。

3. その他

○事務局（企画調整課長）　毎度でございますが、９時がお約束の時間ですので、お約束の時間には閉めたいと思うんですけれども、どうしましょうか。最後に何かありましたらどうぞ。何か言い足りないという方はいらっしゃいますか。

○Ｃ委員　この後どのようにこれをまとめてくのでしょうか。

○事務局（企画調整課長）　今回のこの市民会議の話すフレームとしては、第１回目に決めさせていただきましたように、Ｆ委員からご提案のあったフレームを基本として、３つの視点でということで、一応ここまでは議論をさせていただいております。皆様のご意見をどう集約するのかというのはすごく大事だと思いますので、それは前回お約束しましたように、事務局のほうで今まとめの作業をしております。後でちょっとご覧になっていただきたいんですが、５回目はまとめということにしておりますので、今までのご議論、言い足りなかったこと、それとまた新しくテーマとして取り入れてほしいということもあろうかと思いますので、次回はもっとフリーな、まとめとして、武蔵野市の将来像としてどう考えるかというようなご議論をいただければなというふうに思っております。

○Ｃ委員　報告書はどのような体裁でつくるのでしょうか。

○事務局（企画調整課長）　そうですね、それはちょっと後でまた皆様にご相談をしたいと思っております。基本的に皆様のご意見を事務局が加工することなく、まとめ案をお示ししたいと思います。

○Ｉ委員　まとめの案はつくってくださるの。

○事務局（企画調整課長）　はい。それで、皆様で議論していただこうと思っております。
　では、今日は第４回ということで、ここまで議論いただきましてありがとうございました。４回目としましては、ここをもって閉会とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
（了）